

彩の歳時記

平成二十四年 七月

朝顔につるべ取られてもらひ水

加賀千代女【1703～1775】

「朝顔の蔓が、つるべに巻き付いて切るのもかわいそうなので、近くの井戸に水を借りに行く」

有名な俳句の一つですが、つるべ(釣瓶)じたいが生活から消え、見かけることも

稀になりました。釣瓶とは、井戸で水を汲み上げる時に使う滑車で、縄や竿に吊り

下げられた容器。朝顔は、平安時代に遣唐使が持ち帰ったと言われます。

万葉集の「あさがお」は「ききょう」のことでこれとは異なります。

千利休が、満開のアサガオを一輪残して全て摘み取り、茶席に一輪だけ活け、豊臣秀吉を迎え感動させたという「朝顔の茶会」は、利休が茶の心を示した故事として有名。

江戸時代から、観賞用として多種多彩な品種が栽培され、今も夏の風物詩として愛されています。



七月の異称

文月 ふづきとも。短冊に歌や字を書き、書道の上達を願った七夕の行事に由来。

七月の暦

一日 半夏生 「はんげしょう」 雑節 葉の部分が半分化粧したような半夏生(烏柄杓)という薬草が生える頃。

蛸を食べる習慣は、関西の風習。田植えした稲が土の中で蛸の足のよう根付くようにと願う。

海開き・童謡の日

六日～八日 朝顔市 大田南畝の地口「おそれ入谷の鬼子母神」で有名な「入谷鬼子母神真源寺」

で開催。「団十郎」という朝顔は歌舞伎役者、市川団十郎が好んだと言われる茶色に由来。



七日 小暑 梅雨明けの頃、暑さも本格的に。

七夕 元は、十五日の夜に戻って来る祖先の衣を棚で機織した事から「棚機」という。

それが、仏教上の行事「盂蘭盆(盆)」となり、棚機は盆の準備の日ということと七日に。これに中国の故事、織女・牽牛の伝説が結び付けられ、宮廷行事として定着した。



ゆかたの日 日本ゆかた連合会が1981年に制定。裁縫の上達を祈り、衣類に感謝したという中国の故事に因む。 羅(うすもの)をゆるやかに着て崩れざる 松本たかし【1906～1956】

九日 鷗外忌 今年、生誕百五十年を迎える明治の文豪・森鷗外【1862～1922】の忌日。

軍医總監。石見の国(現・島根県津和野)出身。代表作に『舞姫』『鴈』『山椒大夫』など。

十一月一日の鷗外記念館開館、それに向けて、多くの記念事業を開催、予定されている。



九日 四万六千日 浅草観音ほおずき市 この日にお参りすると、四万六千日分の功德があると。

十三日 盆迎え火 十五日 盂蘭盆会 十六日 送り火

十六日 海の日 二十日の海の日が2003年に祝日化し第三月曜日に。

十九日 土用丑の日 平賀源内が鰻屋のために書いたコピーからと言われるが千年前

の万葉集「吾れもの申す夏瘦せによしといふものぞ鰻とり食せ」 大伴家持

二十二日 大暑【二十四節気】 快晴が続く、気温が上がりがり続けるころ。



七月の歌 山男の歌 詞 神保信雄 曲 不詳

「口伝」なので、メロディーも歌詞も山岳部ごとに替歌がある。昭和二十四年に現在の歌詞が『神保』によって付けられ、その後、「うたごえ喫茶」で流行した。

広く世に出たのは、1962年の『ダーク・ダックス』の歌唱による。拍子に変調し難しいのは、元が「石切り場」の作業歌であり、海軍兵学校で「巡航節」として、歌い継がれたから。近年は中高年の遭難も多く、自然の脅威が心に響く歌。

- 1 娘さんよく聞けよ 山男にや惚れるなよ
- 2 娘さんよく聞けよ 山男の好物はよ

- 山の便りだよ
- 飯盒(はんごう)のめしだよ
- 緑り返し